

藤 沢

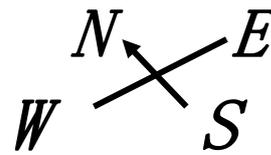
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット主
な
記
事

- ・原発政策の転換 パブコメを実施
- ・神奈川県母親大会厚木で
- ・横須賀石炭火力発電所裁判
- ・「失われた時の中で」上映

2023年2月1日

第345号

<http://econet2015.sakura.ne.jp>事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / FAX 0466-87-4922

脱炭素社会の実現をめざして

脱炭素社会めざしトヨタが生き残りをかけ EV シフトを鮮明にし、トップが交代した。脱炭素化部品のサプライチェーンを担う中小企業に大きな影響が出るであろう。

藤沢市は「脱炭素社会の実現に向け、2050年までに二酸化炭素排出 実質ゼロをめざす」と「気候非常事態宣言」を表明して3年目に入った。昨年度、藤沢市地球温暖化対策実行計画が改訂され、2030年度に46%削減(2013年度比)を決定し啓蒙から実行段階に入った。

脱炭素社会の実現、社会のしくみづくりでは行政のリーダーシップが課題で、その中心課題は省エネと再エネでPPA事業などにより民間参入の促進である。

本年度は環境省の「脱炭素先行地域事業」(2/3 国庫補助)及び「重点対策加速化事業」(1/2 補助)に応募することになり、慶応大と連携する北部地域及び辻堂地域が選定されるようである。

選定要件は ①2030年までに民生部門電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロの実現 ②再エネ設備の最大限の導入及び対象となる住民や企業等との合意形成 ③これを通して地域課題(雇用確保、産業維持・育成、地域ビジネス創生、防災力向上、生活の質向上)の解決、即ち、まちづくり(街おこし)。④計画の実現のためには、関係者間における具体的な体制の構築(金融機関も含め)と形成、あらゆる主体による「街おこし会議」プラットフォームを作り、これを起爆剤として横展開をめざす。そのカギは行政のリーダーシップ、推進体制の構築である。

地球温暖化対策地域協議会の勉強会では、改定藤沢市地球温暖化対策実行計画のパブコメ素案について取り組みの進捗管理の実施と体制(PDCAサイクルを回していく仕組み)が重要であると意見が出されていた。また、地球温暖化対策研究会の会合でも推進体制の見直しを行い、市役所内にカーボンニュートラルに向けた専門部署の創設とその司令塔機能が必要との意見が出されている。さらに、同副会長は、「藤沢市は政令指定都市に次ぐような他市をリードした存在であってほしい」と述べている(同第1回議事録)。

気候非常事態宣言3年目に入るに当たり、脱炭素社会の実現をめざすための推進体制としてカーボンニュートラルに向けた専門部署の創設により、市民・事業者と共に来たるべき脱炭素社会で多くの中小企業が生き残れるしくみを地域につくる「街おこし」の実現を急がねばならない。

(藤沢市地球温暖化対策地域協議会会員 宮地俊作)



今田遊水池 境川沿いの広場

原発政策の転換、4件のパブコメを実施

日本の原発政策が大きな転換点を迎えています。2011年の東日本大震災以来、政府は原発再稼働などに慎重な姿勢を貫いてきました。ところが昨年末12月22日にGX（グリーントランスフォーメーション）実行会議は将来の電源に原発を最大限活用することを基本方針としました。そしてこの方針を補強する3文書を加え、計4件のパブリックコメントを発しました（下表参照）。なおこれらパブコメはいずれも募集期間が過ぎました。

	実施主体	パブコメの対象文書
1	原子力規制委員会	高経年化した発電用原子炉に関する安全規制の概要（案）
2	資源エネルギー庁	今後の原子力政策の方向性と行動指針（案）
3	内閣官房ほか	「GX実現に向けた基本方針」
4	原子力委員会	「原子力利用に関する基本的考え方」

今回の文書（案）は原発の運転期間について変更しようとしています。これまで福島第一原発の重大事故を契機に、原発の最大使用期限を原則40年としつつ例外として原子力規制委員会が認めれば1回に限り20年延長できるとしてきました（原子炉等規制法）。この規定を変更し、点検や訴訟などによる発電を停止した期間はカウントしないことを含め、同委員会が許可すれば60年以上の稼働も可能としました。さらに原発はGXの主要な電源と位置付け、原発の再稼働・立て替え・新設が推奨するなど原子力の積極利用に転換しました。

このような重大な変更を含むパブコメを、年末年始の時期にしかも各地で公聴会を開くなどの周知努力もないまま行いました。

なお、これら文書の発表にFoE Japanは声明をだし、現在、署名「原発の運転期間の延長に反対します」を呼びかけています。また関連22団体も共同の声明「まやかしのGXに抗議—原発は最大のグリーンウォッシュ※」を発表しました。まだ遅くはありません。まずは国民的な議論が必要です。

※一見、環境に配慮しているように見せかけて、実態そうではなく、環境意識の高い消費者に誤解を与えるようなこと。
（菅谷芳雄）

神奈川県母親大会、厚木で

厚木市文化会館で1月14日行われた神奈川県母親大会は多彩な内容であり、午後の全体会は上野千鶴子さんの講演でした。

上野さんは女性運動の専門的な知識を持ち、研究や著書も多数あります。今、ジェンダー平等が叫ばれている時、母親大会にふさわしく女性運動の歴史から学びました。

印象に残ったお話は、戦争中の家族制度の中で、「大日本帝国婦人会」は最大の女性組織であり、銃後として加担した国家の傀儡（かいらい）団体であったこと～その組織に従わざるを得なかったこと、戦場に子を送り出しても母は泣かないで食いしばったことなど戦後史に加害者としての母がいたことなど、家父長制度の代理人としての母性は共犯者であったと話された。戦後選挙制度では家父長制の中では女の選挙権は認められていても家族で何票と割り当てられたりしていた。それに逆らえない風潮だったなど今では考えられないことがありびっくりでした。



白龍太鼓

午前の分科会では中村哲さんの活動の映画「荒野に希望の灯をともし」上映を観ました。アフガニスタンの戦地で医師と

して現地の人々の病を治し、家族が戦地に行かず農業で自立できるようにと村人に訴え、自ら用水路を建設し2019年12月に凶弾で命を奪われました。彼の功績は称えられ今も建設は続けられているといえます。

他の分科会は「平和のために私たちができることは～平和を創る道を探る～」元外務省国際情報局長 孫崎享さんのお話し。「食の安全、そして日本の農業」と題し八田純人さん（農民連分析センター所長）のお話がありました。

文化行事の厚木飯山地区に残る伝統文化「白龍太鼓」は圧倒されるバチさばきの迫力に魅了されました。

コロナ禍の中でオンラインでの視聴もでき900人を越える参加者がありました。（荒井）

横須賀石炭火力発電所 行政訴訟判決！

2023年1月27日、「原告らの請求を棄却する」内容は判決文を読んで下さい。裁判長の判決読み上げ約1分、閉廷！…ほか～ん…。神戸他各地から詰めかけた満員の傍聴席はあっけにとられた…。



要するに「石炭火力発電所作って何が悪い？」というものだ。

<法廷を出てからの弁護団報告> 記者会見等（僕なりの要約）あきれほどの不当な判決に関し3つの要点を簡潔に言えば

- ① CO₂を大量に出す石炭火力発電によって温暖化が加速し、原告らがどのような被害を受けるのかという事に一言も触れられていない。裁判所の使命である「被害に向き合う」ということをしない
- ② 「大海の一滴」論
横須賀火力発電所だけで、世界のCO₂排出量の1000分の一にもなるという事実に対して。すでに、世界には他のCO₂排出機関等があるのだから、この発電所1基からだけの排出1000分の一なんてのは大した量ではない。だから横須賀石炭火力発電所が温暖化を加速させるとは言えない
- ③ 「合理化ガイドライン」＝アセスをほぼやらす許可を出した

過去の発電機関に比べ性能等は良くなっているのだからアセスの簡略、という国の判断に違法性はない（実際アセスはほとんどやっていない）

しかし、私達原告側、弁護団が調べた結果（隠ぺいしていたので）その比較対象規準は昭和45年の規準（50年以上前のもの）という事が分かっている。日本の裁判所がどれだけ世界の潮流から取り残されているか？更にはこの裁判所の判断が、今世界中起こっている気候変動による被害者の命を奪っているということも言える。「人権の砦」と言われる裁判所が被害者を救わずに誰が救うのか？数ある冤罪裁判ももちろん、僕はこの現実を自分の目で目撃すること、更には中学生が

らでもいい、一緒に傍聴し、裁判の様子を子どもの頃から見せることもお薦めしたい。

次世代につけを残すような生き方であってはならない、大人も子どもも一緒に考えることも必要だと思う。当然控訴！「勝つ方法はあきらめないこと」

（原告 武本匡弘）

坂田監督「失われた時の中で」上映

ベトナム戦争の末期1960年代に、森林に隠れている南ベトナム解放民族戦線・ベトコンを一掃するため、アメリカは枯葉剤を撒いた。その後、周辺地域に重い障害を持った子どもが多く生まれた。

1980年代、ベトナムのベトちゃん、ドクちゃんという、下半身がつながって生まれた兄弟の映像がテレビに流れ、日本で手術し、その後ベトナムで分離手術に成功したとの報道があった。

坂田雅子監督は、ベトナムの帰還兵で写真家だった夫の死をきっかけに、カメラを手にベトナムに向かい、そこで目にしたのは戦後30年を過ぎてなお、枯葉剤の影響で重い障害を持って生まれてきた子どもたちと、愛しみ育てる家族の姿だった。

それからおよそ20年、ベトナムは目覚ましい経済発展を遂げたが、被害者とその家族はとり残されたままである。坂田監督は、枯葉剤被害者の現実に向き合い、その支援活動続ける医師や、アメリカ政府と枯葉剤を製造した企業に対する裁判を起こした元ジャーナリスト等々、戦争の傷跡に向き合い続ける姿を記録し、「花はどこへいった」（2007）、「沈黙の春を生きて」（2011）そして「失われた時の中で」（2022）を発表した。また2010年にベトナムの枯葉剤被害者支援のために「希望の種」という奨学金制度を設立し、子ども達の教育を支えている。

私は、心打たれるドキュメンタリーを観て、言葉を失った。半世紀も前に撒かれた枯葉剤で、未だに障害を持つ子どもが生まれている事に衝撃を受けた。化学物質は人類に多大の便利さや利益をもたらしたが、毒性のある化学物質の怖さ、遺伝子に働きかけ、何代にも影響を与える怖さを感じた。80年代にはテレビに放映され、皆知っていたが、最近では何も報道されていない。知らされていない。メディアの責任の重さを思った。

（青柳節子）

気候危機アクション藤沢の行動に参加して

毎月駅頭で気候危機時計スタンディングをして、地球温暖化対策の啓蒙活動をしています。

先日、藤沢市環境総務課課長との懇談会に、気候危機アクション藤沢のメンバーとして参加しました。

主題は「気候時計」、1.5度上昇までに残された使用可能なCO₂量をカウントダウンする時計で2023年1月1日現在 6年203日とのモニター画面をリサイクルプラザに展示して貰うこと。アンケートなどで反響を見て、市の施設に拡大し、藤沢気候危機ポスターやチラシを作ってCO₂削減の啓蒙活動をすすめる方向で、市も積極的に協力してくれることになりました。



藤沢を環境最先端指定都市に、重点区域にと皆さん知恵を絞っています。環境省の求める「脱炭素先行地域」に申請するなど、交付金を得るための先進的なエネルギー政策を、市の担当者と環境団体が共に話し合える場が有ることにワクワクします。

1月12日の「エコビジネス」公式HPでは世界で300社、日本からは6社が選ばれています。水素発電用タービン・触媒による水素生成装置・木材チップや家畜糞尿からの水素生成装置などの普及による循環型社会の到来を胸に、駅頭で「気候時計」のチラシを配っていると「原発を推進し、福島原発事故を経験した世代の責任として、クリーンエネルギーに変えて次の世代に引き継ぎたい」との思いがふつふつと湧いてきます。(野田美雪)

気候危機時計

2023年1月1日現在
このまま何もしなければ

地球温暖化1.5℃上昇まで
残りはあと
1.5℃に抑えるために
使えるCO₂の限度

6年、203日
世界 2,730億トン
藤沢 1,514万トン

いつまでに 何を

NGO気候危機アクション藤沢

ECONET INFORMATION

▲「子どもたちが訴えた

311 甲状腺がん裁判

講師 井戸謙一さん(弁護士)

2月19日(日) 13:30-

平塚市美術館1階(0463-35-2111)

主催 福島の子どもたちと共に平塚

申込 100人 090-6798-7534(小嶋)



▲岸田政権による大軍拡と大増税の危険性

講師 五十嵐仁さん(法政大名誉教授)

2月25日(土) 13:00-16:00-

鎌倉市生涯学習センター第5集会室

主催 鎌倉逗子学習会議・湘南学習会議

申込 080-5018-3172(深山)

▲気候危機スタンディング

2月24日(月) 15:00-16:00

湘南台駅西口地上エスカレーター前

主催: 気候危機アクション藤沢



▲福島っ子応援 寄付のお願い

コロナ禍の中、福島で暮らす子どもたちが放射能の心配がより少ない所で過ごすための経済的支援を行います。昨年実施した方たちから大変喜ばれました。

振込先 ゆうちよ銀行

記号 00270-8 番号 70820 口座名義

福島の子どもたちとともに・湘南の会

他の金融機関からの振込

ゆうちよ銀行029(ゼロニキュウ)店(029)

口座番号 当座 0070820

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

◆事務局会議2月4日(土)10:00-六会公民館

《編集後記》希望の核禁条約発効から1月で2年経ち、68カ国が締約した。だがロシアのウクライナ侵攻が2月24日で1年、戦闘拡大の気配だ。戦争を止め、平和へと強く願う。コロナ感染症の終わりも見えないが、政府は5月8日から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引下げするとし、感染対策は弱まるが、公費負担も減る。コロナ死者は1月に初の8000人を越え、60代以上が9割以上を占め、依然としてシニアには恐ろしい感染症である。(A)